

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

<私の出会った名物先生シリーズ①>

そもそも君はなぜ勉強するの？

私の中学時代の社会科教師のA先生。かつてハンドボールの国体選手として活躍した、見るからに体育系教師。しかし、その博学ぶり、知識量のすごさと言ったら驚くほど。椅子に腰を下ろしたまま、教師と生徒との問答で粛々と授業は進んでいく。チョークや黒板はほとんど使わない。

例えば、地理の授業での世界の国々の鉱物資源についての学習場面。資料集の片隅に普通なら見逃しそうな小さな文字で『タングステン』という用語が出てきた。「貝塚君、『タングステン』とは何だね。」「？・・・ウルトラマンに出てくる怪獣にそんなのがいたような気がするんですが。」「ばかやろう。ふざけるな。金属の名前だ。どんなところに素材として使われているかわかるか？」

(そんなの教科書にも資料集にもものってないよ～)「わかりません。」と答えると、やおら教室の天井を指さして、「あの蛍光灯の両側の部分、あそこだな。フィラメントという部分だ。生きているうちにダイヤモンドにはお目にかかれなくても、『タングステン』は常に我々の身近にある。」すべてがそんな調子だった。

指名されて恥をかきたくないし、答えられないと癪なので、必死になって予習した。当時はインターネットなんてもちろんなかったのだから、図書室の百科事典で授業に出てくる重要語句・用語等に関連して質問が出る内容を想像しながら調べて授業に臨んだ。まるでトリビアの世界だ。質問されたことが誰も答えられずに、自分がちょうど調べた内容で答えられたときは、正直「やったあ。」と鼻高々に思ったものだ。

でも、そんな内容はテストにちっとも出やしない。「『タングステン』の産出量世界第一位の国は？」という問題ならまだしも、「『タングステン』が素材として使われているものは？」なんてどんな問題集や過去問にもありやしない。

かくして授業とはまた別のテスト勉強が必要だった。ある時、勇気を振り絞って質問してみた。「先生、これってテストに出る可能性はあるんですか？」「何？君はテストのために勉強しているのかね。了見の狭い考えだ。」一蹴された。思えば、彼の授業は、今で言う総合的な学習の時間そのものだった。「学問」の本質の一端に触れたと感じられた初めての経験。そして、人から教わったのではなく、自分で調べたことの知識や情報は、深く長い間持続する。原子番号74番・元素記号Wの『タングステン』君、ぼくは君の存在を一生忘れない。

皆さんは、子どもに、「どうして勉強しないといけないの？」と聞かれて、何と答えるだろうか。子どもの学習意欲を喚起し、勉強へのモチベーションを

高めるためにも、勉強しなければならない理由の存在は無視できない。人それぞれの考えや答えがあるはずだ。

◇いい高校や大学に入るためだよ。 ◇将来なりたい職業に就くためだよ。

◇今のうちに勉強しておかないと後で苦勞するんだよ。

こういうことを言うのは、親御さんが多いかもしれない。いふなれば、家族として人生の先輩として、あなたの将来を最優先に考えていますよ的な発想だが、もしかしたら親のエゴや見栄も見え隠れするような気もする。

◇広い視野で世界をみるためだよ。 ◇「生きる力」をつけるためだよ。

◇生活するうえで役立つ知識や技能を身に付けるためだよ。

◇好奇心や思考力、判断力、表現力を伸ばすためだよ。

◇“学び方”を知るためだよ。

我々教師や教育関係者は、こんなことを答える人も多いだろう。確かに正統でその通りの理由だが、子どもにとっては前述の理由より身近に受け止めにくい内容表現で、ピンとこないかもしれない。本当にこう説明されて生徒がみんなやる気になれば苦勞はしない。

さて、5/31・6/1日に、今年度最初の前期中間テストを迎える。今、うちの学校の生徒に、「何で勉強するの？」と聞けば「定期テストが近いから」と答える生徒がたくさんいるだろう。そして、もし学校からテストの類をすべてなくしたとすると、子どもは勉強しなくなるかもしれない。ほとんどの子が喜ぶかもしれない。ほとんどの学校でテストを評価の貴重な原資の一つと扱っている現状を考えると、我々教師側もかなり戸惑うのではなかろうか。

現時点ではまだまだ現実社会での経験値がない中学生にとって、崇高で正統な学習が必要な理由や意義を見出すこと自体難しい。理由なんて何だっていいと思う。大切なのは、他人からのお仕着せのものでなく、本人が本人なりの明確な理由や意義を自分の意思としてもっているか否かだ。

私の中学校時代の勉強へのモチベーションは2つあった。一つは、常に恐怖の対象として虐げられていた存在の二人の兄を見返す手立てが、勉強しかなかったこと。もう一つは、自分が勝手に最大のライバル視していた同じクラスのS君には、スポーツや運動関係のどんな競技や種目で何一つ勝てなかったもので、何とか頑張って勉強だけは勝ちたいと思っていたこと。

一度子どもに聞いてみてほしい。「どうして勉強しているの？」それに対する自分なりの明確な答えを持ち合わせていなければ、いつまでたっても、テストのための勉強、評価されるための勉強を続けることになる。

「テストでいい点をとると気分がいい。」「テストで〇〇ちゃんに負けたくない。」現時点ならば、それはそれで明確な自分の考えでよろしいかと思う。

勉強は何のためにするかは人それぞれで複数解答あるだろう。でも勉強は誰のためにするのか。もちろん自分自身のためだ。その答えは一つしかない。